

第7回小松空港中期ビジョン策定検討委員会 議事概要

日時：令和7年3月31日（月） 10：00～11：00

場所：石川県行政庁舎1106会議室

事務局からの資料説明後、以下の意見交換がなされた。

○ビルの改築、空港の民営化について

- 今後インバウンドが一層増加し、羽田や成田だけでは受入が難しくなったときに、小松空港でしっかりと対応できるようにビルの建て替えや民営化は重要。
- ターミナルビルの建て替えに併せて周辺観光ルートを構築することが重要。お旅祭りや航空祭などのイベントに合わせたモデル的な観光ルートにまずは魅力を感じてもらい、それをさらに深めていくことが大事
- 保安検査後の商業施設の充実化について、他空港では保安検査後の施設の充実化を図った反面、保安検査前の施設が貧弱となり利用者の満足度が低下したという事例がある。そうした観点を考慮することも重要。
- 現状のターミナルビルでは十分なおもてなしができないため、早く新しくしてほしい。
- 民営化について、身軽な形でやるかコンセッションでやるかの詳細は今後担当で詰めていくことになると思うが、しっかりとやってほしい

○空港を核とした賑わいの創出について

- 空港を核とした賑わいの創出を是非やってほしい。ターミナルビルの建て替えや民営化に加えて、小松市で進めている産業団地の話や、防災庁誘致の話もある。国・県・市・民間が一体となってまちづくりをやっていくことがビジョンの最大の目標であり、しっかり取り組んでほしい。
- 官民挙げてまちづくりに取り組んでいく必要がある中で、「まちづくりの中心となる小松市」という表現は、国、県、市、民間が一体となって取り組んでいくという趣旨の表現に変更していただきたい。
- 空港が迷惑施設から地域振興施設にシフトしていくのは最近のトレンド。成田空港周辺市町でも県と連携した空港中心のまちづくりをやっている。

○航空路線について

- 羽田便の維持は1丁目1番地であり、さらに重要視していかなければいけない。

- 国際線のデイリー化についてもできることをやっていくべき。
- 東京へは航空機と新幹線で競合するが、それ以外のローカルとローカルを結ぶところについては、新幹線との共存という視点が大切になってくる。
- 地方において国際貨物路線を持っているのは大きな特徴であり、貨物の利用促進は今後もしっかりと取り組んでいくべき。

○観光面、その他

- 安宅地区に残る古い町家を宿泊所として整備し観光客の受け入れ体制を強化することも、空港周辺の魅力向上につながる。
- インバウンドの獲得に向けて、国際乗継について県で目標値を設定してはどうか。
- 二次交通の不足については、ニーズがないので民間の投資が進まないということではないか。観光のポテンシャルを上げていくことが大切。
- 共存共栄の観点で、小松基地の関係者と連携して空港の活性化に取り組んでいくことが大切。
- 観光振興を広域で進めているところは、空港だけでなく二次交通を含めて広範囲の議論がなされている。民間投資を促すために関係者で連携してやっていくことが重要。
- 下地島空港は民間が良いビルを作ったが、他の計画が追い付いていない、地域振興の全体計画として魅力的なものを作っていかなければいけない。
- 高速道路のインターチェンジを早急に整備すべき。
- グランドハンドリングよりも保安関係の離職率が高い。ソフトインフラは重要なのでしっかり取り組んでいかなければいけない。

以 上

※この議事概要は未定稿です。